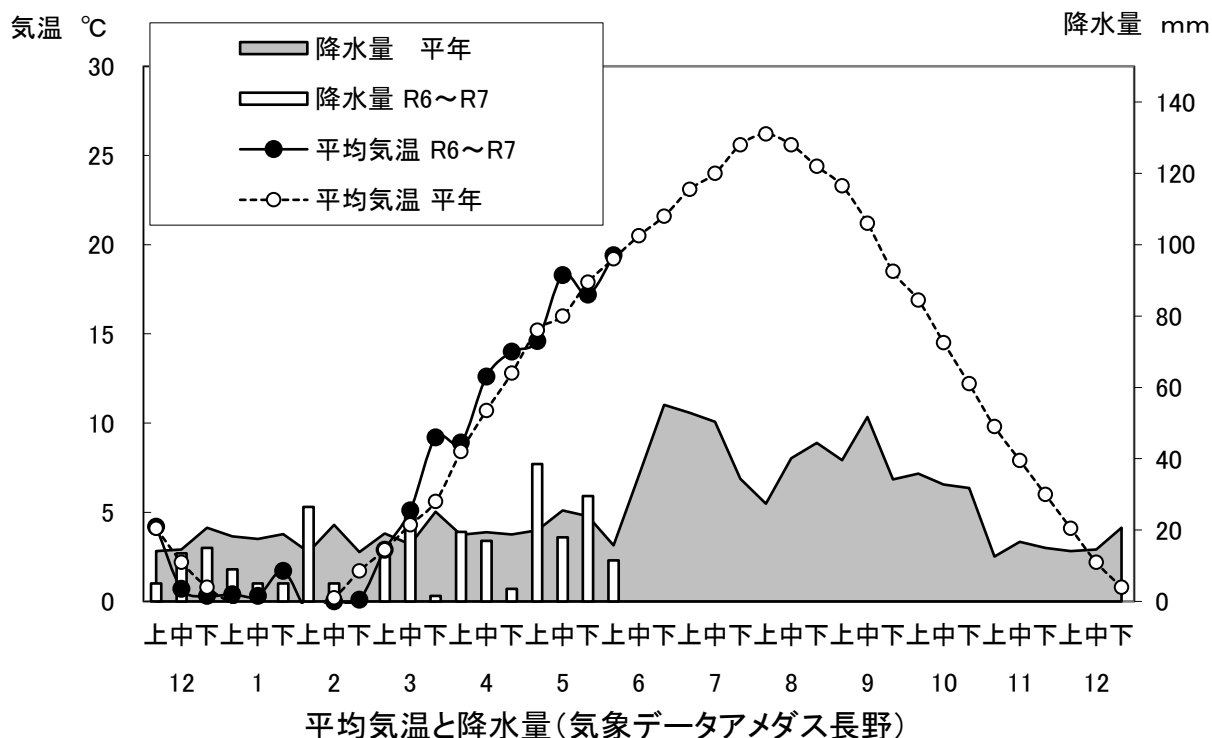


農作物の生育状況（6月15日現在）について

令和7年6月15日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【麦類】

大麦のシュンライは平年より 2 日程早い 5 月 29 日から収穫が開始された。大きな湿害や病害、倒伏もなく生育は良好であった。小麦は 6 月 20 日頃から収穫が開始される見込み。5 月 21 日の強風により、千曲市のユメセイキおよび長野市南部のハナチカラを栽培する広い範囲のほ場で倒伏が発生した。

コムギ赤かび病の防除は、千曲市で5月上旬、長野市南部で5月中旬に実施された。巡回調査では長野市南部で発生が確認された。

【水稻】

気温の変動が大きく、葉先焼けが各地で確認された。特にポット苗やみのる育苗においては、平年よりも根上りの発生が多く見られた。病害については信更町でばか苗病が4件、大町地域では苗立枯れ病の発生が確認されている。一部では過湿・乾燥による出芽不良、黄化苗、ヤケ苗が報告されている。

【果樹】

(1) りんご

「ふじ」の6月16日における肥大調査では前年比縦96%、横91%、平年比縦106%、横97%と前年・平年とほぼ同様である。標高が高い地域を中心に樹、枝単位の隔年結果や「ふじ」のカラマツ症状が発生しているものの結実量は確保されている。また、5月21日に降雹のあった地域では果面の裂傷、サビの発生が見られ摘果に対応している。病害虫では腐らん病の発生が散見されている。

(2) ふどう

ぶどう「無核巨峰」の満開は6月7日で、平年より4日早く、昨年より4日早かった。同一品種内の生育のバラつきが大きくなっている。また、降雨が定期的にあるため防除間隔が空いた園地ではべと病の発生が見られる。

(3) なし

昨年ほどの結実ではないが、概ね必要な結実量は確保されている。「南水」の6月16日肥大調査では前年比縦75%、横91%、平年比縦93%、横93%と前年及び平年並みである。

(4) 核果類

開花期の天候不順等で一部地域、品目、品種で結実不良が発生したが、概ね必要な結実量は確保されている。「川中島白桃」の6月16日肥大調査は前年比縦99%、横96%、側95%、平年比縦103%、横97%、側98%と前年及び平年並みである。また、5月21日に降雹のあった地域では果面の裂傷、サビの発生が見られ摘果で対応している。せん孔細菌病の春型病斑は平年並みの発生である。

【野菜】

(1) アスパラガス

平坦部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型は収穫終了～立茎中であり、5月立茎は夏どりが開始されている。露地では昼夜の温度差と降水量が若干少なかったことから、夏芽の萌芽は少ない傾向である。

(2) 果菜類

半促成加温作型のキュウリの生育は、収穫後期となっている。無加温の作型は夜温が低く推移していたこともあり、生育は遅れた。半促成加温作型トマトの生育は、ほぼ順調であり、収穫中である。概ね特筆すべき病害虫の発生は見られていない。

露地ピーマンの定植について終了。寒暖差により生育が若干遅い。

【花き】

(1) トルコギキョウ

5月の平均気温が低かったことから、平年よりも1週間から10日程度生育が遅れている。

病害では、フザリウム菌、ピシウム菌による立ち枯の発生が目立っている。

(2) コギク

4月下旬の台風以降、5月下旬降雨があったことから、草丈も順調に伸びている。

【畜産】

(1) 牧草

永年性牧草は出穂は5月下旬だったが、晴れの日が続かなかつたため、6月はじめから一番草の収穫が始まった。晴れの日が続かないため収穫が進んでいない。

えんばくは伸長期で草丈50cmくらいとなっている。昨年より降水量が少ない影響か昨年よりは草丈が低くなっている。

(2) デントコーン

5月下旬に播種され2～3葉期となっている。生育は平年並み。

(3) ソルガム

5月下旬に播種され2葉期となっている。生育は平年並み。